

心とからだの健康をサポートする（健康・医療ケアの活動）

これまでの健康・医療ケア活動と今

2011年3月の原発事故後、仮設住宅での生活を余儀なくされた方々の訪問支援からスタートしました。現在は、村内の施設に集まったのケアや、集まりに参加できない方を戸別に訪問しています。医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー、サポーターなどがチームを組み、心身の健康へのアドバイスや、フットケア、歩行アドバイスなどを行いながら、孤立しがちな日常生活を支え、健康不安の軽減に取り組んでいます。

村の人たちが最後まで村で暮らしていくために必要な地域医療が2つ生まれました

2021年、村内に訪問看護ステーション「あがべご」が誕生しました。さらに、2022年4月から往診・訪問診療に力をいれる医師が村内のクリニックで外来診療を開始されました。わたしたち健康医療ケアチームは、この2つの地域医療を村の人たちが気軽に利用してもらえるよう協働することになりました。

2つの地域医療システムとの協働

わたしたちの毎月一度の村の施設や地区集会所での集いに、クリニックの医師と訪問看護ステーション所長やスタッフも参加されます。ここで相談コーナーを設け、村の方の悩みをお聴きし必要なサービスに橋渡しをします。医療相談、訪問看護相談のほか、“歩き方を見える化”できる歩行測定、フットケア、整体等を実施し、健康な生活づくりに役立ててもらいます。また、コロナ感染で現地訪問を控えなければならない時期は、「安心テレフォン」で不安な日々を送っている方の声を聴き診療に繋げることに軸足を移します。

課題

お集りになる村の方々の大半が送迎を必要とする高齢者です。村内外からの有志を募り、有償での送迎サービスを定着させたいと願っています。



集いでの健康相談コーナー



フットケア